

白鳥あおい物語 第1話

白鳥あおいは高校時代、吹奏楽部に所属し、フルートを吹いていました。英語は好きで得意でしたが、数学と現代文が苦手です。

将来について悩んでいたところ、進路指導の先生の助言もあり、広く人の支援にかかわる仕事に携わりたいと思うようになりました。そして、保育士資格・教員免許の取得ができる保育・教育学系の大学に進学することにしました。



4月になり、あおいは期待と不安を胸に大学の入学式を迎えました。式でたまたま隣の席になった神田さくらという女の子と話をしたら、気が合いそうな感じがしました。その後、一緒に新入生ガイダンスにも参加しました。ガイダンスでは「高校までの学びと大学での学びの姿勢は異なる」「学修要覧に載っている教育課程表を見ながら自分で履修する科目を決める」「必修科目はかならず履修する」などの説明を受けました。

あおいは「えっ、自分で科目を選ぶの?」と、とまどいながらも、とりあえず第1週目は必修科目と書かれている科目と、選択科目のなかで関心のある科目から出席することにしました。

必修科目の一つに、「基礎ゼミナール」という少人数でクラス分けされた授業がありました。「誰と一緒になるのかな……」と不安に思いながら、最初の授業を迎えました。



基礎ゼミナールの人数は10名。そのなかに入學式で知り合ったさくらもいて、ホッとしました。担当は優しそうな立川道之介先生という、心理学を担当する先生です。基礎ゼミナールでは、大学生活における心構えや図書館での資料収集の仕方、レポートの書き方、パワーポイントを使用した発表の仕方などを学ぶということでした。

こうして、あおいの大学生活がスタートしました。

1限に出席するには朝7時には起きないといけません。高校までと違って一日中授業が入っているともかぎらず、午前中で終わったり、途中で1コマ空き時間があったりします。

授業中も先生が板書をしてくれることは少なく、講義を聞きながら自分でポイントをノートにとる必要があります。資料もいろいろ配布されるので、ファイルなどで整理しなければなりません。あおいとさくらは、さっそく大学の帰りにクリアファイルを買に行くことにしました。

「科目ごとに色違いにしようかな」とさくらが言います。

「それいいね。背表紙に科目名を書くシールも買うわ」

無事にファイルとシールを購入した二人は、カフェで一休みすることにしました。

あおいはカフェラテを一口飲み、椅子の背にもたれます。

「ふう、疲れた〜」

「うん。レポートを書くときは資料を集めなきゃいけないみたいだし、高校までと違って大変だよね」と、さくらも不安を口にします。

「でも、まあサークルに入りたいし、バイトもしたいし、楽しみでもあるよね」

「だよね!」

4年間でたくさん思い出を作りたいな、と思うあおいでした。



3 ブックレポートを書いてみよう

①「あらすじ」と「要約」は違う

ブックレポートを含め、報告型の課題が出たときに気をつけなくてはならないのは、テーマに関連する文献や資料の「あらすじ」を書くのではなく、**要約**を書くということです。「あらすじ」というのは、内容を最初から最後まで満遍なく拾い出し、全体を短く紹介し直した文章を指します。

それに対し「要約」というのは本や論文であれば、**①著者がどのようなテーマの問題に対して、②どのような素材や方法・論拠を使って、③どのような主張を行っているか**、という3点を押さえてまとめ直すことです。

授業であれば、**①先生がどのようなトピックについて、②どのような話題や資料を使って、③どのようなことを学生に伝えようとしていたか**、の3点を押さえてまとめればよいでしょう。

ブックレポートの課題が出たら、指定された本や論文のあらすじを書いて提出すればよいと考える人も多いかもしれませんが、しかし、ブックレポートの課題で求められているのは文章のあらすじをつかむ力ではなく、文章の要点をつかむ力なのです。

②自分の考えや意見を添えて書く

ブックレポートには**指定文献の要約**が求められるタイプと、要約に**自分の考えも添えて**提出することが求められるタイプがあります。いずれのタイプでも、まずは指定された文献にざっと目を通し、どのようなテーマについて、どのような立場から書かれたものなのかを把握します。

続いて文献を丁寧に読んでいきます。その際、**①著者がどのようなテーマの問題に対して、②どのような素材や方法・論拠を使って、③どのような主張を行っているか**、という3点を気に留めながら読むことが大切です。

さらに文献の要約だけではなく、自分の考えや意見も求められている場合には、著者の主張に「賛成する」「同意する」「反対する」「異論がある」など、自分の考えや立場をメモしながら読み進めましょう。

20 × × 年 5 月 15 日

ブックレポート

授業名：基礎ゼミナール 担当教員：立川道之介
学籍番号：J25-031 氏名：白鳥あおい

書誌情報

阿部彩 (2012) 「豊かさ」と「貧しさ」：相対的貧困と子ども．発達心理学研究, 23(4), 362-374.

①要約

阿部 (2012) は、我が国の子どもの相対的貧困の割合についての現状を踏まえたうえで、「豊かさ」や「貧しさ」が相対的な概念であることを確認し、たとえ豊かな社会であっても貧困は子どもに悪影響を及ぼすことを指摘している。彼女はこの悪影響について、子どもの社会的排除につながるリスクと、生育環境の厳しさが子どもの健全な成長に及ぼす影響を指摘している。

②この文献に対する自分の意見

「相対的貧困」の見えにくさの背景に、私たち自身の「豊かさ」や「貧しさ」についてのイメージや価値観がかかわっていることを知った。世帯所得にもとづいた相対的貧困率の指標だけでは貧困の実情を十分にとらえきれないことがわかった。その社会に生きる人々の「豊かさ」や「貧しさ」についての価値観を把握することから貧困の実態に迫る必要があることを学んだ。

③キーワード

豊かさ、貧しさ、相対的貧困、絶対的貧困、社会的排除

図2-2 ブックレポートの例

1 卒業論文発表会の目的と方法

1 卒業論文発表会はなぜあるのか

卒業論文発表会は、学生が自身の研究成果を広く共有する場であり、大学での学びの集大成として位置づけられています。大事な公式行事ですので遅刻や欠席はできません。

発表を通じて、**論理的に研究内容を説明する力**や**プレゼンテーション能力**が養われます。また、教員やほかの学生からの質問やコメントを受けることで、研究を多面的に評価される機会となります。

この発表会は、成績評価の一環としても重要です。**主査**（研究指導教員）と**副査**（別の視点から研究を審査する教員）による審査を通じて、評価の公平性と透明性が確保されます。また、後輩にとっては、先輩の発表を通じて研究の進め方やテーマ選びのヒントを得る貴重な学びの機会となります。

公開の場で行われる**質疑応答**や**意見交換**は発表者にとって新たな視点を得る機会となり、研究をより深く理解するための重要なプロセスでもあります。

2 卒業論文発表会の形式と運営について

卒業論文発表会は、通常、朝からはじまり、昼休みを挟んで夕方までの長丁場になることが多いです。形式は大学や学部・学科によってさまざまです。学生全員が**口頭発表**を行う場合もあれば、ゼミ内で発表会を行ったあと、学科合同の発表会でゼミ代表者が発表するスタイルもあります。また、一度に多くの発表を行うために、**ポスター形式**を採用している大学もあります。

発表会の運営は、教員と学生が協力して行うことが多く、ゼミの3年生が**司会進行**、**タイムキーパー**、**ベル係**、**会場係**などを担当することもあります。発表会の流れは、開会のあいさつ、発表会の進行方法や発表時間などの説明のあと、学生による発表と質疑応答が行われます。一人あたりの持ち時間が15分の場合、発表10分間＋質疑応答5分間（スライドの片づけや次の発表者との入れ替え時間を含む）で進行することが一般的です。

全員の発表後に主査や副査による講評が行われます。

口頭発表

発表者

会場に設置されている PC を使用する場合は、スライドのデータを USB メモリに保存して持参します。各自で PC を持ち込む場合は、プロジェクターとの接続端子（HDMI 端子など）が自分の PC に対応しているか事前に確認しましょう

司会

会の進行、発表者の紹介、質疑応答の対応などを行います。この役割を担当することになったら、発表者のリストを事前に入手し、名前の読み方などを確認しておきましょう



会場係

会場の照明のオン・オフ、質疑応答の際にマイクを質問者の所に運ぶなど、スムーズな会の進行を助ける役割です

タイムキーパー

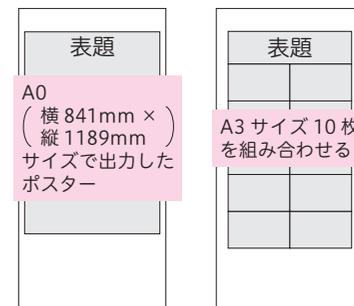
ストップウォッチで時間を計り、ベルなどで発表者と会場に時間を知らせます

〈ベルの鳴らし方の例〉

- * 10 分間の発表＋質疑応答 5 分間の場合
- 8 分経過：1 回ベルを鳴らす
- 10 分経過：2 回ベルを鳴らす
- 15 分経過：3 回ベルを鳴らす

ポスター発表

規定の発表時間（1 時間程度が多い）のあいだ、発表者はポスターの前で待機し、訪れた人に研究の概要を説明したり質疑応答をしたりします。



パネル（横 900mm × 縦 1800mm が一般的）



一度にたくさんの人が発表できること、直接対話をしながら討論できること、参加者が自分の関心に合わせて発表を見ることができることなどが利点です

図 8-1 卒業論文発表会の形式